

問 不落になった入札に対しての所見は

答 認識が甘かったと反省している



太田伸子議員

【学校給食施設建設について】

問 建設業者選定の入札不落の経緯は。

答 教育長 特定建設工事共
同企業体(特定JV)5者
による指名競争入札を行ったが
5者全てが予定価格に達せず、再
度入札を実施。4者が辞退、1者
のみの応札で予定価格に達せず
不落に。最低価格提示者と2回を
限度に随意契約を検討する「不落
随契」を行うが、2回とも予定価
格に達せず不調になる。2回目の
見積金額は9億720万円、予
定価格に対して1億700万円
余りの開き。

問 基本設計業者と実施設計
業者の事業者名と契約金
額は。

答 教育長 基本設計業者・
実施設計業者とも指名
競争入札により松本市の(株)
県設計。契約金額は基本設計予
定価格22,743,200に對
して324,000円、実施設計
予定価格19,008,000円
に対して12,690,000円。

問 子どもたちの食の安全を
早急に確保するための事
業であるが、今後どのように進め
るのか。

答 交付決定されている国の
補助金の執行上からも、時
間的に猶予もなく前に進める中
で、設計内容を見直している。年
明けに再度入札を実施できるよ
う努めている。

問 藤本副村長の2年間に期待することは

答 村の地方創生に、活躍を大いに期待

【特別職及び職員配置について】

問 村の要望で、総務省より派遣された藤本副村長の期限が2年と限られているが、村長の期待するところは。

答 職務担当は地方創生。「総合戦略実現に向けた、各種施策の構築」「景観と環境を基礎とした観光地づくり」「地域コミュニティ形成と推進」「地域内循環システム・経済システムの構築」など。職員の模範ともなり、総務省へ帰った折には、村及び職員にとって、目に見えない大きな財産になると期待している。

問 藤本副村長の赴任前と赴任後の白馬の印象は。

答 藤本副村長 赴任前は、スキーをはじめとする観光が盛んな村というイメージ。赴任後は、感じていた以上にポテンシャルの高い地域であると感じている。しかし、先進的であるが故の課題も多い。課題に対応し、村が将来にわたって持続可能な仕組みを作っていきたい。

問 村長の職員配置の基本的な考えは。

答 「専門性の高い人材育成」「若手職員の早期育成」

部職員の養成」など。もちろん「人事評価制度」や「再任用制度」はベースにある。個別の考え方として、重点施策や専門性が高い業務か、実務の継承

が容易であるか、全課体制がとれるかも考慮しなければならない。一般的な事、個別の事を総合して行っている。



学校給食施設建設予定地〔中学校裏〕